

2025年2月7日

第63回関西財界セミナー 分科会議長・モデレーター報告

第1分科会「ポスト万博を見据えた関西の未来図」

第1セッション論点

- ・これから実現したい「未来社会」の姿、現代の「万博」という場への期待

第2セッション論点

- ・未来社会を実現する万博レガシー、ポスト万博における産業の方向性

第3セッション論点

- ・大東西軸における関西のまちづくり未来図と文化・観光の可能性

議論の総括

- ・新技術・アイデアを、既成概念にとらわれずに社会実装・産業化までつなげられる機運醸成と、他方、関西らしいクリエイティブな「カルチャー」を形成することが、万博の真の成功。
- ・①AI・半導体など、成長分野への積極投資、人材育成、産業基盤の強化、②3つの東西軸を中心に、夢洲～せとうち～西日本まで拡大した文化・観光や、MICE・IRを生かした都市ブランディングや世界の潮流を先取りしたSXSWなど、③産学官の力で万博の魅力向上に努め、中長期的に万博レガシーを創出する仕組みを整備。

第1セッション論点

- 循環経済がもたらす価値、脱炭素や生物多様性との親和性
- 循環経済への移行に向けた課題

第2セッション論点

- 海外動向を踏まえた日本の目指すべき姿
- 持続可能で儲かる循環経済への道筋

第3セッション論点

- 日本発・日本型『循環経済』の実現に向けて各主体がすべきこと
- 個社としての枠組みを超えた連携のあり方
- 関西が果たすべき役割

議論の総括

- 循環経済は環境だけでなくウェルビーイングや経済安保に貢献することを認識し、企業としても相互に関係する脱炭素や生物多様性と統合的に捉えるべき
- 日本は製造・再生技術を武器に、製造業のサービス化等のビジネスモデル再構築や近隣諸国との連携を見据えた、新たな日本発・日本型循環経済を構築すべき
- 官民ともに縦割りを打破し、企業はデータ活用等で規模・業界・動静脈を超えて協調し、成果の可視化・発信により、消費者を含めた社会全体で推進すべき
- 「もったいない」「三方よし」の文化が根付く関西が一丸となり、大阪・関西万博の好機も捉え、循環経済への移行を牽引すべき

第3分科会 「未来社会を『教育』でデザインする～次世代人材育成における企業の役割～」

第1セッション論点

- ・大学教育および学生の現状
- ・大学・学生・企業それぞれの課題・危機意識

第2セッション論点

- ・企業や学生の大学への期待、大学や学生の企業への期待
- ・大学と企業が果たすべき役割

第3セッション論点

- ・企業が取組む上で解決すべき課題・ハードル
- ・企業が意識して取組むべきこと

議論の総括

- ①若者の意識が変化し、新卒一括採用・終身雇用・企業内人材育成を前提とした従来型雇用システムが限界を迎えつつある中、競争力の源泉たる人材育成の強化は必須であり、急務である
- ②企業は自ら大学に歩み寄り、社会貢献・地域貢献の想いを持って大学における人材育成の一翼を積極的に担うべき
- ③大学と企業が相互協力し、大学4年間に拘らず、シームレスに連携することで、未来社会を担う人材が生み出される
- ④こうした課題を認識しつつも、停滞している現状を打破すべく、まずは関西で企業と大学で協働した人材育成プラットフォームづくり等、スモールスタートの動き出しが待ったなしである

第4分科会 「災害対応における企業および地域の防災力向上にむけて」

第1セッション論点

- ・自社および地域コミュニティにおける取組み
- ・平時からの顔の見える関係性の構築の必要性

第2セッション論点

- ・官民での連携・課題共有の取組み
- ・インバウンド等の観光分野における取組み

第3セッション論点

- ・国土強靱化、広域的な災害対策の取組み
- ・関西が果たすべき役割、リダンダンシーの確保

議論の総括

- ・ 自助で、継続的な課題の洗い出しとBCPの不断の見直しが重要。平時から、企業間・地域との関係構築を確立し、防災人材の育成、災害に強い地域づくりにつなげることが重要。
- ・ 早期復旧等は、官民が連携しての情報管理やデータ連携が重要。また、インバウンド客に対する情報発信の取り組みを官民で進めていくことが重要。
- ・ 府県を越えた広域的な仕組みの整備が必要である。事前防災に努めるとともに、非常時の広域自治体の権限強化を進めることが重要であり、関西広域連合の機能拡充や複眼型の国土形成に向けた防災庁の役割等の議論が必要。

第5分科会「激動の国際情勢下におけるグローバルリスクと企業経営」

第1セッション論点

- ・企業を取り巻く国際情勢とリスク認識、議論の前提として主要な環境変化とその影響の把握。

第2セッション論点

- ・国際情勢・環境の変化に対応しうるグローバルサプライチェーンの構築・維持のため、どのようなリスクファクターを考慮すべきか。

第3セッション論点

- ・グローバルサプライチェーン戦略について、企業の事例をもとに議論を深める。(教訓とすべき課題、企業として取るべき戦略の建て方)

議論の総括

- ・グローバルな環境変化として、米中に加えアセアンやグローバルサウスの動向を注視する。戦後の世界秩序の転換点にあることや、日本の現在の立ち位置や果たすべき役割などを認識する。
- ・インテリジェンス機能を強化することにより、国際情勢の変化を敏感に捉え、グローバルサプライチェーンにおけるリスクファクターや脆弱性を把握し、これに備えて対応する。
- ・リスクへの耐性強化のため、グローバルサプライチェーン全体を総点検して絶えず見直しを行い、強靱なビジネスモデルを創出していく。
- ・ワーストケースを想定し、地政学・自然災害などのリスクを考慮したリスク分散型経営を取るなど、経営のレジリエンスを高めていく。

第6分科会 「これからの都市の力」

第1セッション:「都市の力」を高める上で、何を鍛えるべきか

- ・世界のトップ都市:ディープテック、スタートアップ、ウェルビーイングシティ
- ・関西:アイデアをビジネスに変える力が課題→ヨコの繋がり、心理的安全性確保を

第2セッション:目指すべき都市に必要な「仕組み」とは

- ・丁寧な合意形成:中間支援組織、デシディムなどの活用
- ・企業が社会と出会う場(社員も市民):公共空間、会社のアセット(人、場所 など)

第3セッション:これからの都市における企業・企業人の使命

- ・チャレンジを創る都市、課題解決による社会価値創出、グランドデザインに企業も参画
- ・提言からDoへ、固有性を活かす、当事者性と客観性を持たせる“interpreter”

総括:これからの都市=社会価値を生み出すプラットフォーム

- ・会社の意識変容→多様な社会価値を認めて任せよう
 - ・行政を巻き込み、有機的コミュニティを
 - ・「突破できる人」を創る→サポート体制(中間支援組織)の創設
- ⇒ 概念、領域、人を繋げて、ビジネスエコシステムの構築へ